

研究所ニュース No.64

りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/

2014 年度役員

(理事)

- 森山 沾一(理事長)
- 安蘇 龍生(執行理事)
- 石瀧 豊美
- 梶原 正実
- 加藤 陽一(執行理事)
- 小西 清則(副理事長)
- 新谷 恭明(執行理事)
- 園田 久子
- 西尾 紀臣(副理事長)
- 原田 憲正(執行理事)
- 福永 謙二
- 堀内 忠(副理事長)
- 松尾 祐作(執行理事)
- 山田 澄子
- 山手誠之助(執行理事)

(監事)

- 外園 令明
- 奥野 淳子
- 西村 芳樹

(顧問)

- 組坂 繁之
- 林 力



定時会員総会 会場風景

公益社団法人 福岡県人権研究所

二〇一四年度 定時会員総会・記念講演会を開催

二〇一四年五月十八日(日) 福岡県人権啓発情報センター

本研究所の二〇一四年度定時会員総会と記念講演会が、福岡県人権啓発情報センターで行われ、約五〇人が集いました。

はじめに、森山理事長が挨拶を行い、来賓として福岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課の青木毅企画監、福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育局の本田健吉参事、福岡市市民局人権部人権推進課の大庭浩之係長が紹介され、代表して本田健吉参事から挨拶をいただきました。

総会審議では、会員の峰司郎さんが議長に選出され、第一号議案の二〇一三年度事業報告(案)、第二号議案の正味財産増減計画書(案)、第三号議案の二〇一四年度事業計画(案)、第四号議案の収支予算(案)、第五号議案の役員、監事等(案)がそれぞれ提案され、いずれも満場一致で承認されました。

その後、代表理事選挙理事会において、森山沾一理事長の再任と、小西清則理事、堀内忠理事、西尾紀臣理事が副理事長に再任された旨を松尾祐作所長が報告し、原田博治新理事を含む二〇一四年度の役員が、会員に紹介されました。



総会後の記念講演会では、熊本学園大学教授で水俣学研究中心長の花田昌宣さんが「水俣病事件の現在と水俣学の課題」差別と人権の視座から」と題して講演しました。花田さんは、「水俣学とは、現場に学び、現地に返す、事実を根ざすこと、事実を寄り添うこと」と言われ、現場に学ぶことの大切さを多くの写真資料を紹介しながら語られました。

以下、参加者の感想を紹介します。
○人権問題を考えていく私たちにとって舟と舟をつなぐ人々を人をつなぐ命を大切にす

る「もやい直し」という連帯のことは大切にしたいと考える。部落差別や多くの人権問題をミナマタを通して自分自身のこととして考えさせられた講演であった。

○差別される側、被害者側の幾重にも重なっていき辛さ、権力・加害者側の都合、水俣に限らずこれからも起こっていくことだ。深い見方をしなくてはと目からウロコだった。水俣はもう終わった問題のように感じていた自分を深く反省した。
○なかなか水俣について学ぶことがない現状の中で、しっかりと学び正しく子どもたちに伝えていくことが大切だと思った。授業で感染症の内容があり、その中で一人が「水俣病」と言ったことがあった。その時、その子や学級の子どもに対してきちんと答えることができなかった自分がいた。しっかりと向き合うことの大切さに気づかされた発言だった。花田

さんの話から、自分が学び、子どもたちにかかりと伝えていくことを大切にしていきたい。○「現場に学び、現地に返す」という言葉に改めて考えさせられた。



記念講演講師の花田昌宣さん

「人権社会確立第三回九州研究集会」分科会で森山理事長らが報告

(五月二十七日 福岡国際会議場)

「人権政策確立の現状と課題」と題した第一分科会では、森山浩一理事長、堀内忠副理事長が、稲積謙次郎さん、吉岡正博さんとともにパネラーとして報告。第四分科会では、松本・井元研究会の関儀久さんが「明治初期における賤視解消の取り組みについて」福岡県那珂堀口村を例に、啓発部会の加来康宣さんが「部落史を学び直す」教科書記述の変遷からわかることと私たち」と題して報告しました。

会員の声

○韓国からのスタディ・ツアーを受け入れて

田川地区人権センター 光武 均

このとりくみは、昨年度より始まりました。韓国太田市の観光会社は、単なる観光のみにとどまらない、スタディ・ツアーという旅行を計画し、世界各地を訪れる取り組みをしています。

昨年度、この会社より、日本へのスタディ・ツアーを考えているが、田川で受け入れてもらえるだろうかという打診があり、協議の結果希望者を募りツアーを組むことになったと連絡がありました。

これを受けて、一二月と一月に中・高・大学生と引率者が来日しました。

センターとしては、日本と韓国の交流が、古代から続いてきたこと、その跡が田川の各所に残っているというを紹介しました。また、戦争中には、韓国から多数の方を連れてきて、炭鉱や工場で働かせたこと、その中には、事故や病気などで命を落とした方が多数おられることも説明しました。

特に、韓国から日本に来るにあたって、三つの段階を経て労働者を連れてきたことを説明しました。

三つの段階とは、

- ①募集：本人の希望により日本に連れてくる。
- ②官斡旋：朝鮮総督府が斡旋する形で労働者を連れて来た。その際、朝鮮半島の各村に割り当てをして、その数を満たすようにした。
- ③徴用：命令により強制的に連れてくる。

この三段階であり、このことをもって人権センターとしては、「強制連行」としていろいろのことを詳しく説明しました。学生たちは、初めて聞く話のようでしたが、最後まで真剣に聞いてくれました。

田川市石炭・歴史博物館の見学も行い、炭鉱や石炭のことについても、しっかりと学習してもらいました。

また、日本で亡くなられた方々の慰霊について、墓碑も建てられずに土の下に眠っておられる方について、その事実を住民や見学者に伝えるため、墓石の代わりに置かれているボタ石を保存する取り組みを関係団体と連携して取り組んでいることの説明もしました。



韓国学生たちへの説明



ブックレット菜の花18 『冬来たりなば 春遠からじ』

—九州水平社を担った人々—

二〇一四年五月二五日 福岡県人権研究所発行

頒価一〇〇〇円十税(研究所会員は二割引)

福岡県人権研究所では、ブックレット菜の花18『冬来たりなば春遠からじ』九州水平社を担った人々』を刊行しました。

本誌には九州・福岡の水平社運動に係わった人物や運動、事件史が描かれています。その特徴は①『九州水平社創立九〇周年記念誌』を基本に、わかりやすく解説されていること。②九州水平社の運動史を年代を軸に取り上げていること。③一九七四年設立の福岡部落史研究会からの研究や論文を参考にしていることです。タイトルの「冬来たりなば春遠からじ」は、部落解放運動の指導者であった故井元麟之さんが好んで使ったイギリスの詩の一節です。是非お求め下さい。(取扱は福岡県人権研究所)



ボタ石の墓標周辺を除草する学生たち

その後、実際に現地に案内し、説明と除草作業、供養の行事を行いました。体験を通じて、日本人や韓国人を問わず、日本の発展のために、尽くしてくださった方として大切にしていきたいという趣旨を分かってもらおうと努めてきたことを伝えました。

その結果、学生たちは、取り組みを理解し、来た時に抱えていた反日感情が、帰る時には変化していることが、後の感想からもよく分かります。

以下に、学生の感想をいくつか紹介します。(中二の学生)

日本人に対する誤解が消えた。普段、日本に対して誤解をたくさんしていた。学校でも

日本のよくない面しか接してないので、今まで日本は悪いと思ってきた。

今朝、私は石炭博物館に行った。そこで、石炭が作られる過程と韓国人の強制徴用に関する話を聞いた。日本を、さらに悪く思った。

昼食後、強制徴用された韓国人の墓に行つて除草作業をし、黙祷を捧げた。強制徴用された韓国人の慰霊碑の前で、日本人の先生たちが黙祷を捧げるのを見て、私の疑いは消え失せた。こういう日本人がいるのも知らずに過去のことで全ての日本人が悪いと判断した私が恥ずかしくかった。

(中三の学生)

石炭歴史博物館に入る前、見たのは強制徴用された労働者の慰霊碑だった。強制的に労働をさせられ、日本は死んだ韓国人の遺骨を放置した。人を人と思わないで動物のように扱ったことに怒りを感じた。

その後のお話で韓国と日本の交流は一三〇〇年前から続いてきたし、焼き物、工芸などを韓国から伝授してもらったという話を聞いた。

また、自主的に強制徴用者のための碑石を建ててお墓を管理しているという話を聞いて最初感じた怒りが少し治まった。

強制徴用された韓国人のお墓を整理するボランティア活動もした。それには、田川地区人権センターが関係していた。日本人にもかかわらず、韓国人のお墓、日本人のお墓をおかへだてなく整理したこと、体系的に管理し

ていることに感動した。日本の人々は、韓国を嫌って過去を反省しないと考えていたが、このことで肯定的な考えが増した。特に人権センターを訪問し、先生たちがしているいろいろな活動を通して、日本と日本人にたいしてもう一度考え直すいい機会になった。



炭鉱で働いて亡くなった方々の無縁墓碑前で

○食肉産業の現場を歩く

李 由紀

私は九州大学大学院で文化人類学を専攻している。九州へは、昨年春の大学院進学に伴いやってきた。現在は北九州市と福岡市にある食肉産業の現場を主にフィールドとして研究を進めている。かつて「屠場」「屠畜場」として各地域に存在した屠畜・解体施設は、現

た刃物で身体を誤って切ってしまった跡も多く見られる。

一五歳から四〇年以上にわたりこの仕事を続けている方は、あらゆる家畜の屠畜から小売りまでこなせるといい、入った当初は先輩職人の技術を言葉で教わるのではなく目で盗み身体に叩き込んできたと話す。彼らが解体道具へのこだわりや、機械化以前の解体室での思い出を語る表情は、屠畜・解体に集中しているときは対照的にとても優しい。

今後の展望としては、北九州市もそうであるが、国内の小規模の屠畜場は安価な輸入肉との競合により近年経営赤字を抱えているところが少なくない。その上、周辺地域からは迷惑施設という偏見を向けられ、この先統合か閉鎖かという選択を迫られている。私は、いずれ施設の完全機械化がなされ、屠畜・解体に職人技術が必要とされなくなるのではないかとこの心配をしている。その前に、いまある「屠畜場」を記録・記憶しておかなければならない。これからも私は肉を食べる。そのたびに家畜と食卓のあいだに立ち、いのちのバトンをつなげてくれる職人たちを思うだろう。生きものを「屠る」という行為を見つめなおし、もう一度「いただきます」「ごちそうさま」と言ってみたい。

(李由紀さんは、二〇一四年四月に入会した学生会員です)



猪の解体作業



職人の手

和泉市立人権文化センター資料室

旧南王子村の歴史と文化を伝える
資料室事業企画・運営
特定非営利活動法人ダッシュ
吉岡隼平(よしおか・じゅんぺい)

今回は、大阪府和泉市の和泉市立人権文化センターの活動を、同センター資料室の吉岡隼平さんに紹介していただきました。

■和泉市立人権文化センター資料室

当資料室は人権文化センター内に設置され、旧南王子村の歴史と文化を常設展示しています。センターは一九七七年に市立解放総合センター(隣保館)として開設され、二〇〇一年に人権文化センターへリニューアルされました。七〇〇八〇年代に同対策事業による環境改善事業がすすみ、団地が建設されていきました。まちが変わっていくなかで郷土の歩みを残そうと、一九八七年に資料室がセンターの一室に開設されました。九〇年代に人権文化センター構想が練られ、その一環として現在の資料室が整備されました。

南王子村は、近世は一村独立の「かわた」村として知られ、



一村独立のかわた村

門外不出として保管されていた村方文書が公開されたことにより歴史があきらかになりました。古文書資料集が刊行されていることから、今でも研究や部落史教材の具体例として取り上げられています。

■通史展示室

◇近世「一村独立のかわた村」

村の成り立ち、ゆかりの寺社紹介など概略を紹介しています。一角にあるジオラマファントビューで身分制度の中で苦勞しながらも、差別の不当さを訴えてきた姿を見ることができます。

◇近代「村のすがた」村政・青年団・水平社」

部落改善事業や融和事業、青年団と水平社運動についてパネルで紹介しています。青年団は機関誌を発行して現存している百冊余りの一部を展示しています。南王子水平社結成当時は、「水平社運動号」が発行され、「創立宣言」がとじこまれています。また、「韓国併合」以後、

当時の朝鮮半島出身者が移住してきて、現在でも在日韓国人・朝鮮人の多住地域となっています。



南王子村のすがた
～村政・青年団・水平社～

「現代への視点」として、戦後の教育や識字に関する運動や住宅整備を求める運動と現在のまちづくりを紹介しています。

◇民俗伝承と芸能

この南王子村は信太山のふもとにあり、その丘陵に広がる信太の森は「しのだま」伝承(白狐・葛の葉伝説)の舞台です。この伝承は安倍晴明の伝説と結びつき、文楽や歌舞伎でも演じられてきました。また、熊野三山に通じる熊野街道(通称小栗街道)も通っていて、小栗判官伝承のゆかりの地もあります。これらは中世の説話語りから広まり、芸能化された物語です。



小栗判官伝承の地「笠かけ
松・腰かけ石」

■民俗展示室

◇生活をささえた仕事

江戸中期頃から盛んになった竹皮を編んで作る履物、雪踏(せった)、近代以降に南王子含む周辺地域で盛んになったガラス・人造真珠産業を紹介しています。ビデオで製造工程をみることができます。

◇暮らしの再現

一九七〇年頃を想定して、団地が建つ前の路地を再現しています。家の中では人造真珠の内職、「枠張り」と「通し換え」の様子も再現しています。

◇人の一生

冠婚葬祭や食文化、秋祭り(だんじり)、唄と盆踊りを紹介しています。盆踊りは古くから歌い踊りつがれてきた伝承盆踊りです。昭和初期の阪和線開通時に電鉄会社の協力も得て盛大に行われるようになり、現在の歌詞も整えられました。村の外からも見物客が来るようになり、雑誌『上方』に「見物記」が掲載されるほどでした。さまざまな歌詞がありますが、「しのだま」伝承が盆踊りになった「葛の葉子別れ」が名高いです。



生活をささえた仕事(民俗1)



暮らしの再現(民俗2)

■ムラの魅力を伝えたい

旧南王子村は近世以来独立村であり、他の「かわた村」に比べ規模が大きく、仕事を通じて差別を乗り越えてきた側面もあります。また、活発な文化活動から外向きにも開かれていたプラスのエネルギーを感じることが出来る歴史と文化を持つムラです。そんな魅力を伝えることができるような講座や体験企画に取り組んでいます。



信太山盆踊り

■施設案内

和泉市立人権文化センター資料室

〒594-0023

大阪府和泉市伯太町六丁目1番20号

【電話&FAX】0725-47-1560

【メール】m471561@icam.zaq.ne.jp

【休室日】月曜日(祝日は開室)、年末年始

【入室料】無料

【最寄駅】JR阪和線「信太山」駅

※詳細は人権資料展示全国ネットワークのリーフレットを参照してください。

「特定非営利活動法人ダッシュ」について

資料室事業をはじめ、人権文化センターの一部事業は民間委託されています。そのうち数事業は当法人が受託しています。NPO法人の事業としてフィールドワーク研修(ダッシュツアー)の受け入れをしています。旧地域の史跡、ゆかりの地見学はもちろんのこと、ガラス棒生地工場見学、ガラス細工体験も可能です。半日や一日の研修のみならず、一泊研修や修学旅行の一部としてもご利用いただけます。



ガラス細工体験

【電話】0725-46-3809
【メール】info@dash-npo.org
※ご連絡頂ければ参考資料をお送りします。

福岡県人権研究所プロジェクト支援事業

今年度のプロジェクト支援事業は以下の三事業に決定しました。

○福岡県における在日韓国・朝鮮人教育の成立―関係者への聞き取り調査をもとに

(板山勝樹さん)

○小・中学校歴史の教育内容づくりの実践
(代表・塚本博和さん)

○福岡県の水平運動と融和運動の研究
―真鍋博愛の事跡を通して
(竹永茂美さん)

お知らせ

○第三三回九州地区部落解放史研究集会

▽テーマ 「九州の被差別民、その多様性をさぐる」

▽日時 八月二日(土)～三日(日)

▽会場 佐賀市文化会館三階 大会議室

▽参加費 (佐賀市日の出)一、一〇〇円(資料代含む) Tel.0952-32-3000)

▽主催 九州地区部落解放史研究連絡協議会

○福岡県人権研究所主催または企画事業

○第一二回筑前竹槍一揆ウォークin福津

(企画・歴史学習プロジェクト)

▽テーマ 「筑前竹槍一揆関連史跡と畦町宿を巡る」

▽日時 八月一七日(日) 九時三〇分受付一〇時開会

▽会場 福津市畦町公民館(福津市畦町二九五)

▽参加費 (保険・資料代含む) 一五〇〇円(研究所会員二割引)

○海外人権スタディツアー

(企画・海外人権スタディツアー企画部会)

▽内容 「紅茶農園で働く女性たちとの交流・世界遺産シ

ギリアロック観光、他」

▽訪問国 スリランカ(キャンディー・ハットン・コロンボ)

▽催行日 八月一八日(月)～八月二五日(月) 八日間

▽旅費 二二九〇〇〇円(二人参加の場合)

○福岡部落史研究会(公社)福岡県人権研究所の前身) 設立四〇周年記念のつどい

▽日時 九月二八日(日) 一三時～一七時

▽会場 福岡市立早良市民センター(地下鉄「藤崎駅」そば)

▽内容 (案)「母を語る」中山武敏さん(弁護士)、朗誦「水

平社宣言」中西和久さん(俳優)、「国際人権の

潮流」友永健三さん(部落解放・人権研究所名

誉理事)、「エンパワメントとダイバーシティ」

森田ゆりさん(エンパワメントセンター主宰)、「

歌と演奏」願児我楽夢

▽参加費 (資料代含む)当日券一、一〇〇円

(前売り一〇〇〇円、研究所会員五〇〇円)

※問い合わせはいずれも研究所まで

研/究/所/日/誌/か/ら (2014.4.21～2014.6.20)

- 4月 21(月) 事務局会
- 24(木) 外国人部会
- 25(金) 差別事件報告集会(ももちパレス)
- 26(土) 教育部会(峰司郎「学力保障実践交流会総括」福岡市)
- 27(日) 外国人部会(研究所)
- 28(月) 事務局会 福岡県隣保館連絡協議会総会(福智町)
- 5月 1(木) 筑前竹槍一揆ウォーク打合せ(福津市)
- 6(火) 第45回松本・井元研究会(研究所)
- 12(月) 部会長・運営委員合同会議(研究所)
- 13(火) 公益法人会計ソフト講習(研究所)
- 14(水) 人権社会確立第34回全九州研究集会地元実行委員会(福岡県部落解放センター)
- 16(金) 海外人権スタディツアー打合せ(研究所)
- 17(土) 部落史研究部会(福岡市)
- 18(日) 理事会 2014年度定時会員総会 新理事会 記念講演(花田昌宣「水俣病事件の現在と水俣学の課題」)(福岡県人権啓発情報センター)
- 19(月) 事務局会
- 22(木) 福岡県人権・同和教育研究協議会定期総会(春日市)
- 24(土) 教育部会(峰司郎『同和』教育における集団づくり)福岡市)
- 25(日) ブックレット『冬来たりなば春遠からじ』発行
- 26(月) 人権社会確立第34回全九州研究集会1日目(福岡国際センター)
- 27(火) 同2日目(福岡国際会議場)九州地区部落解放史研究集会打合せ(福岡国際会議場)
- 30(金) 事務局会 公益法人文書等説明会(県庁講堂)周年事業打合せ(研究所)
- 31(土) 啓発部会(田川市)
- 6月 6(金) 周年事業打合せ(研究所)
- 8(日) 原口顕雄著作集編集委員会(研究所)
- 9(月) 事務局会 筑前竹槍一揆ウォーク現地打合せ(福津市)
- 13(金) 海外人権スタディツアー企画部会(研究所)
- 14(土) 第180回定例研究会・ジェンダー部会(野見山美佐「性的少数者のひとりとして」)
- 外国人部会(山田澄子「イギリスの『人種関係法』制定過程について」)
- 16(月) 事務局会 周年事業打合せ(研究所)

(※敬称略、なお住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務や研修会等の企画、講師依頼への対応等についても省略しています。)